

JIS

工業用炭酸ナトリウム— 第1部：かさ密度の求め方

JIS K 1201-1 : 2000

平成12年7月20日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。

これによって、JIS K 1201 : 1950は廃止され、JIS K 1201-1~JIS K 1201-6に置き換えられる。

JIS K 1201は、一般名称を“工業用炭酸ナトリウム”として、次の各部によって構成する。

第1部：かさ密度の求め方

第2部：250℃における加熱減量及び不揮発物の求め方

第3部：全可溶性アルカリ含有量の求め方—第1節：中和滴定法

第3部：全可溶性アルカリ含有量の求め方—第2節：電位差滴定方法

第4部：塩化ナトリウム含有量の求め方—ホルハルト改良法，電位差滴定方法

第5部：鉄含有量の求め方—1, 10-フェナントロリン吸光光度分析方法，原子吸光分析方法，高周波誘導結合プラズマ発光分光分析方法

第6部：50℃における水不溶物の求め方

主務大臣：通商産業大臣 制定：平成 12. 7. 20

官報公示：平成 12. 7. 21

原案作成協力者：社団法人 日本化学工業協会

審議部会：日本工業標準調査会 化学部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は工業技術院標準部標準業務課 産業基盤標準化推進室 [☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1 TEL 03-3501-1511(代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

工業用炭酸ナトリウム— 第1部：かさ密度の求め方

K 1201-1 : 2000

Sodium carbonate for industrial use—Part 1 : Determination of bulk density

- 1. 適用範囲** この規格は、工業用無水炭酸ナトリウムのかさ密度の求め方について規定する。
- 2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。この引用規格は、その最新版(追補を含む)を適用する。

JIS R 3505 ガラス製体積計

- 3. 測定方法の種類** かさ密度の測定方法は、次の2種類とし、そのいずれかによる。

- a) 手動による方法
- b) タッピング装置による方法

3.1 手動による方法

3.1.1 原理 試料を手動によって、十分たたき込み、最小の容積としてかさ密度を測定する。

3.1.2 器具 メスシリンダー、JIS R 3505に規定する容量100 mlのもの。

3.1.3 試料採取 試料採取は、次による。

- a) **紙袋からの場合** 口部又は胴部からステンレス製スコップ若しくは、ステンレス製さし(例を図1に示す)を用いて採取する。
- b) **フレキシブルコンテナの場合** 充てん口からステンレス製スコップを用いて採取する。
- c) **大形容器の場合** ベルトコンベアーなど輸送機の落ち口でステンレス製スコップを用いて採取する。

3.1.4 操作 操作は、次のとおり行う。

- a) 試料、約50 gをメスシリンダーに0.1 gまでは量り取る。
- b) 肉厚ゴム板上で、メスシリンダーを壊さない程度にたたき付け、試料容積が最小の一定になるまで続ける。
- c) メスシリンダーの目盛から、試料の最小容積を読み取る。

3.1.5 計算 かさ密度は、次の式によって算出する。

$$A = \frac{W}{a}$$

ここに、A：かさ密度

a：試料の最小容積(ml)

W：試料の質量(g)

3.2 タッピング装置による方法

3.2.1 原理 試料をタッピング装置によって十分にたたき込み、得られる試料の最終容積を基準にしてかさ密度を算出する。

3.2.2 装置 タッピング装置(図2に示す)

3.2.3 試料採取 3.1.3によって行う。

3.2.4 操作 操作は、次のとおり行う。